

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

学校評価表作成について

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名	大町町立小中一貫校大町ひじり学園
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・県の小中連携による学力向上推進地域指定事業の初年度で、「大町型授業」について共通理解をはかりながら、「授業改善セット」を使って授業改善に取り組むことができた。 ・コロナ感染症の対策を行い、児童生徒が夢や誇りをもてるよう体験的な行事や地域と連携した学習を行ってきた。 ・教職員の働き方改革については、水曜日の4時間授業と教科担任制の推進により、昨年度より大幅に改善されてきている。
2 学校教育目標	<p>「大磨 智誠」 ～知・徳・体を大きく磨き、人格の完成を目指す～</p> <p>↓</p> <p>「夢に向かって絆・全力・挑戦」 ～夢と誇りをもち、社会をたくましく生き抜く児童生徒の育成～</p>
3 本年度の重点目標	<p>①小中連携による学力向上推進地域指定事業により、主体的に学ぼうとする態度を育てる学習指導のさらなる工夫を図る。</p> <p>②志共育の推進と自問清掃の定着を図る。</p> <p>③教科担任制の推進と大町型体育の推進を図る。</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●全職員による共通理解と共通実践 ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上にする。 ○授業評価アンケートで、肯定的な回答をする児童生徒の割合を80%以上にする。 ○授業の中で学習用パソコンを活用することができたと感じる児童を80%・生徒を90%以上にする。 ○「学年で決められた家庭学習の時間を達成している」と考える児童生徒を70%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通実践についての共通理解の場の設定と意識化 ・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用した授業づくりと授業力向上の推進 ・授業改善リーフレットを活用した授業チェック ・授業評価アンケートの実施 ・校内研究での授業研究会・研修 ・学習規律について、共通理解の場の設定と「学習のルール」に準じた指導 ・パソコン活用における実践交流の場の設定 ・アンケート、研修会の実施 ・「学習のルール」に準じた家庭学習時間の指導
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ○命の大切さや相手の立場を考えて思いやることができるようになったと言える児童生徒を80%以上にする。 ○「いじめの早期発見、早期対応に努める」と回答する教職員を100%とする。 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒95%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒95% 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命尊重、思いやり等の道徳授業の実践 ・本物に触れる体験活動の取組 ・平和集会、人権集会の取組 ・Q-Uの実施、心のアンケート(毎月)教育相談部会(月末火曜日6時間目)小中合同生徒指導・教育相談連絡会(年3回) ・児童生徒情報交換連絡会(毎週) ・「出番・役割・承認」の開発的生徒指導の実践 ・夢や誇りをもつことができるような体験的な行事や地域と連携した学習の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳や人権を考える時間や集会を通して、命や思いやりの大切さを考えることができた児童生徒の割合は、「そう思う」が55%、「どちらかといえばそう思う」が38%で、計93%であった。「そう思う」児童生徒をさらに増やすために、道徳の授業や体験活動等をより一層充実させていきたい。 ・「いじめの早期発見、早期対応に努める」に対して、そう思う70%、どちらかといえばそう思う30%と言う結果であった。研修等を積み重ねているが、意識が変わらない職員への研修による意識改革が早急に必要である。 ・定期的な生徒指導情報交換により、生徒指導事案発生時には迅速な対応が可能となった。 	
	●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ○大町型体育の推進 ○防災教育・安全教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ③「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上 ○体育の学習や外遊び、運動が楽しいと思う児童生徒を80%以上にする。 ○学校内外での安全意識を高める。年間を通して、交通事故を0にする。 ○災害時において取るべき行動について正しく理解している児童生徒の割合を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動等における食育指導の推進 ・朝食の意義や食事の大切さについての児童生徒の啓発及び家庭への協力の呼びかけ ・全学級における学級活動での栄養教諭を中心とした食育指導の実践 ・体育学習の指導の工夫と職員研修による指導力向上 ・運動環境の充実と外遊びや運動の奨励 ・体育的行事(ひじりマラソン)の実施 ・登校指導・各種訓練・危険箇所の点検見回りの実施とその結果を活かした児童生徒への指導 ・防災についての講話や体験を通じた主体的に行動することや支援者としての態度の育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な食の提供や望ましい食習慣に重点化した具体的な目標を立て、給食担当と連携しながら、衛生的な配膳指導や献立を活用した食育指導等を行い、望ましい食習慣の定着に努めたい。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日午後は職員裁量時間として運用 ・定時退勤日(水・金)の推進 ・職員に業務改善アンケートを随時実施し、業務改善を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善アンケートをもとに、職員一人一人の業務改善の意識づけができてきた。月45時間以内の職員が4月60%から1月20%、月80時間以上の職員が4月5%から1月0%となった。前期課程職員は19時までほとんど退勤をしているが、後期課程職員は、数人が19時以降も勤務をしている。 ・メッセージ電話の活用、SSSの活用、ICTを活用したアンケートの実施など業務改善に効果的であった。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
				○キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が夢や誇りをもち、社会をたくましく生き抜くための教育活動

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上については、研究主任を中心に、県の小中連携による学力向上推進地域指定事業により、「大町型授業」について共通理解をはかりながら、「授業改善セット」を使って授業改善に取り組むことができた。5年生以下での学力の向上を図っていく必要がある。 ・児童生徒が夢や誇りをもてるよう体験的な行事や地域と連携した学習を行ってきた。「社会や地域に貢献する」児童生徒を育成するため、来年度は心の教育の充実を図っていく必要がある。 ・教職員の働き方改革については、業務改善アンケートの実施により、職員一人一人が自分事として業務改善に取り組んできたことで、昨年度より大幅に改善されてきている。来年度も教職員の負担軽減を行うシステムの構築と職員の意識改革をさらに行っていく。
----------------	--